

医療における社会・行動科学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
担 当 教 員			
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期 間	前期		

・学習方針（講義概要等）

現代における重大な健康問題である慢性疾患の発生メカニズムは、特定の細菌や化学物質など単一のものでは説明がつけにくい。慢性疾患が「生活習慣病」や「環境病」といわれるように、その発生メカニズムは、健康にとって問題となる望ましくない生活や労働の諸条件、習慣、行動、さらには環境などが媒介的あるいは直接的に作用している。人間の行動が疾患を作りだすのならば、人間が健康のためによい行動（保健行動）を選択して実行するために必要な要因を探り、人間の行動を予測・制御する方法を科学する必要がある。行動科学はそれを行う。

本講義では、人間が健康の保持・増進・回復を目的として行う保健行動に関わる社会的要因、文化的要因、心理的要因について概説する。また、現在、医療の現場で用いられている「人間が自らの意志で行動変容できるように促す」行動科学の理論とモデルを紹介する。医学的な知識に加えて行動科学の基礎理論を学び、人間の行動を科学的に捉える基礎知識を会得することは、医療現場において患者の課題についてロジックを立てて理解し、効果的にサポートすることに役立つ。また、医師、歯科医師、薬剤師、コメディカルが共通の行動科学理論を理解することは、チーム医療を効果的に実施する上で極めて重要である。

行動科学モデルを種々の場面で応用するための基礎を修得することを期待する。

・教育成果（アウトカム）

人の行動や意思決定に関わる社会的要因、文化要因、心理的要因、およびそれら要因間の相互作用に関する知識を会得し、行動科学理論の医療への応用方法を理解することにより、医療人として患者と対応する際に、患者の課題を理解し、効果的に関わる方法が選択できるようになる。

・到達目標（SBO）

1. 社会、文化、心理的要因により健康観が異なることを理解する。
2. 個人が保健行動を実行するための一般的条件を列挙できる。
3. 主要な保健行動に関する行動科学モデルを説明できる。
4. 行動科学モデルを、個人、集団、医療など、種々の場面に適用できることを理解する。

・講義日程

(矢) 西 105 1-E 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/17	金	1	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	健康とは さまざまな健康観について理解する。 行動科学とは 医療における行動科学の役割を理解する。
4/24	金	1	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	行動や生活様式と健康・病気 アラメーダ研究について理解する。
4/27	月	1	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	ソーシャルサポートと健康教育 健康教育の歴史とソーシャルサポートについて理解する
5/15	金	1	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	保健行動論(1) 保健行動の種類と自己効力感について理解する。
5/22	金	1	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	保健行動論(2) 保健行動に関わる社会的要因について理解する
5/25	月	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	保健行動論(3) ヘルスビリーフモデルとローカス・オブ・コントロールについて理解する。
6/1	月	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	保健行動論(4) ストレスとコーピングについて理解する。
6/8	月	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	保健行動論(5) 計画的行動理論について理解する。

6/15	月	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	保健行動論(6) トランス・セオレティカル・モデルについて理解する
6/22	月	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	総合的協同型健康づくり プリシード・プロシードモデルについて理解する。
6/29	月	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	エンパワーメント教育 ヘルスプロモーションにおけるエンパワーメント教育の応用を理解する。
7/6	月	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	ライフスキル教育 WHO の定義するライフスキルについて理解する。
7/13	月	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	メディカルインタビュー メディカルインタビューの基礎について理解する。
7/15	水	3	人間科学科 心理学・行動科学分野	相澤 文恵 准教授	まとめ 講義で学んだ理論を学生生活に応用する方法について考える。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	行動科学－健康づくりのための理論と応用 改訂第2版	端 栄一、土井由利子編集	南江堂	2009
参	健康行動と健康教育 理論, 研究, 実践	Karen Glanz, 他 編集	医学書院	2010

・成績評価方法

定期試験（70%）と提出物（30%）で評価する。

・事前学修時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC	1	講義資料の提示
講義	書面カメラ・DVD プレーヤセット	1	講義資料の提示